



in 鹿島台

ているが、地域を支えることが難しくなると心配しているがどうか。

A 行政委員制度については、当面、存続していく議論がなされているが、予算は削減していく対象になっていく長い目で見たとき、行政区単位の自治組織に期待している。

Q 鹿島台駅周辺の開発計画について情報を提供していただき、計画に参画する機会を与えてほしい。

A 駅周辺開発は皆さんの意見を聞きながら進めるのは当然のことで、費用対効果も考えていかなければならない。基本は、皆さんがこの地域をどうしたいのか、商店街や行政、利用者を含めて目指すべきものをみんなで考えていくことが必要である。

Q 財政再建策の一つとして、人件費や特別職の報酬、議員手当などの見直しを行い、さらには、職員に一般教養や専門知識の試験を実施し、年功序列ではなく職能給付制を導入すべきと思うが。

A 組織のスリム化、行財政の見直しは、民の視点で行うべきと思っている。今回の改革では、事務事業を見直し、経済・産業を促進していくための投資を思い切って行



in 古川

ト意識がまったく見えない。住民から経費節減のアイデアを募集するなどの取り組みはどうか。

A 行財政改革については、必死の思いで行わなければならない。今後、行財政改革のプログラムをお示しいただきたい。

in 古川
平成 19 年
2 月 1 日(水)



宝探し〜地域視察〜

四季彩通り商店街振興組合

「日本一美しいまちづくりへの挑戦」をスローガンに掲げ、環境整備事業に取り組んでいる「四季彩通り商店街振興組合」との意見交換を行いました。組合では、幸福の黄色い郵便ポスト事業を行っていて、この事業を通して交流人口が増加しています。こうした事業を通しての商店街活性化の方策を話し合いました。

い、「二兎を追って二兎を得る」大崎市流改革を成し遂げたい。職員の積極的な研修を行っていくと共に、得意分野個性を把握し、適材適所の人事を行いたい。

Q 仙台北港アクセス鉄道が開業すれば、海外からの誘客にも効果的と思う。市長の考えを聞かせてほしい。

A 市の産業や地域を活性化させる可能性が高いのは、観光である。平成二十年には、ドスティネーションキャンペーンが宮城県で展開される。交流人口を増やす、元気を与える、すぐに取り組める地域振興策として、観光化・商品化について考えていきたい。

in 松山
平成 19 年
1 月 11 日(水)



座敷蔵を視察

宝探し〜地域視察〜

まつやま訪ね歩きの会

会員による松山地域の観光ボランティアガイドを行って

大崎市古川農産加工クラブ連絡協議会

古川農村環境改善センターを拠点に農産物の加工・実習等を主に活動している「古川農産加工クラブ連絡協議会」との意見交換は、会員宅で収穫した地元食材をふんだんに使った昼食を食べながら行いました。どの料理も素晴らしい味で、大崎市の観光戦略に大いに活用すべきものと確信を得ることができました。

未来トーク〜意見交換〜

Q 古川地域は新幹線、東北自動車道があり、立地的には好条件である。市の活性化を図るべく、古川地域への積極的な企業誘致を行ってほしい。

A 「住んでよし、働いてよし」の働く環境を整備し、今ある産業に磨きをかけ、大崎市出身者とのネットワークを活用しながら、企業誘致を進めていく。三本木パークエリアのスマートーCも国土交通省との協議に入った。東北縦貫自動車道のICが市内に三つになれば、地の利を生かした誘致が期待できる。

また、新年度からは、関東自動車との人事交流や県の東京事務所への企業誘致担当職員の派遣も行う。

いる「まつやま訪ね歩きの会」と明治二十年に建築された座敷蔵を会場に懇談を行いました。座敷蔵は外観もさることながら、内部の装飾品には目を覚ますものがあり、大崎市の歴史的財産として、いかにPRしていくかについて話し合いました。

未来トーク〜意見交換〜

Q 松山には神楽、獅子踊、太鼓などの郷土芸能が多くある。これらを伝承していくために、他と一律ではなく、相応の補助をしてほしい。

A 市では、補助金の統一を図っており、事業内容の点検を行っている。伝統文化・伝統芸能の継承は、一般的な補助とは性格を異にするため、団体ごとに状況を把握し、一律の補助ではなく、今までの経緯・重要性を細かくチェックしながら支援策を考えていきたい。

Q 新聞で三本木の給食センター計画の問題が報じられた。国では自校方式が望ましいという見解を出しているのに、なぜ、センター方式なのか。計画を見直してほしい。地産地消の考えで、給食の食材は大崎市内でまかなうなど、食育計画を策定してから給食センター化を考えてほしい。

Q 市図書館及び各公民館の図書室は蔵書数などからいっても他の自治体の図書館と比べ、劣っている。今すぐに建設を求めたものではないが、将来の特色ある図書館建設に向けて話し合いを今から行っていくべきではないか。

A 現在の計画の中では、図書館の建て替えも含めた生涯学習施設の建設を盛り込んでいる。また、他の図書館とのネットワークを利用した図書室の充実も図っていききたい。今後、場所や規模、機能等を含めて大崎市図書館運営協議会で検討いただくようお願いをしたい。

Q 荒川が氾濫しないよう早急に整備を行ってほしい。

A 現在、緒絶川の整備を進めており、平成二十年度には、緒絶川から荒川へのゲートが完成する予定である。

Q 日本の美術工芸品として日本刀は世界から高く評価されている。大崎市、東北地方は日本刀の歴史にゆかりのある地であり、資料館を設置してほしい。

A 大崎市の宝として、保存啓蒙、展示を行う必要がある。全国へ大崎の文化をアピールするためにも検討したい。

A 大崎市全体で食育を進め、その実践現場として学校給食を考えている。地産地消、食育がどれだけ実践されるかが重要である。児童数が少なくなり、自校方式を維持することは困難なことから、給食センター方式を提案した。給食センターの規模であれば、地元の生産組織などと契約が可能となり、地産地消も可能になると考える。

建設予定地については、新市建設計画に盛り込まれているために三本木地域となったが、提案として申し上げたものであり、結論ありきのものではない。時間をかけて多くのかたが納得できる方法を探っていく。

Q 松山高校野球部は、地域行事への積極的な参加をしながらがんばっている。朝練習ができる場の提供、ナイター設備設置等の支援はできないものか。

A 人づくりや野球と言えは松山高校と言われるような、存在感や魅力のある学校になればと期待している。朝練習の場所やナイター設備などグラウンドの状況を把握し、練習環境の向上に努力したい。

Q 市は財政が厳しいと言いますが、取り組みからはコスト

未来へ向けて

「おおさぎ宝探し未来トーク」という名のもとに個性豊かな七地域で移動市長室を開催してきました。皆さんの活動を視察し、意見交換を行うことにより、大崎は宝の山だということに改めて気付くとともに、新たな発見も多く、驚きの連続でした。

午前の部では、各地域で活動を行っている団体とその活動の視察、意見交換を主に行い、午後の部では申し込みをいただいた人、傍聴者の人々から、ご意見、ご提案などをいただき、懇談を行いました。

皆さんからいただいたご意見等は、すぐに行政運営に反映できるものは反映させ、課題としていただきましたものは、今後調査・研究を重ねていきます。

来年度も新しい形での「移動市長室」の開催を予定しています。市民の皆さんのお話を楽しみにしております。